

- セッション一覧 -

10th
Anniversary

これまでを振り返り、未来を描く3日間

Social Impact Day 2026

共創の航海

全ての人々がインパクト・エコノミーの
担い手となり、新たな地平へ

6.17 WED → 6.19 FRI

| Day1: 2026年6月17日 (水) | | Day2: 2026年6月18日 (木) | | Day3: 2026年6月19日 (金) | |
|----------------------|---|----------------------|---|---|---|
| 09:40-10:00 (20分) | オープニング・トーク 共創の航海、ここから始まる — Social Impact Day 10年の軌跡と次の地平へ | 09:30-10:40 (70分) | スペシャルセッション② 日本のインパクト・エコノミー10年の歩み | ※時間変更 08:30-09:20 (50分) | セッション⑩【同時通訳 (Zoom翻訳)】 インパクト・ファイナンスにおけるインパクトの検証・保証の動向～BlueMarkの知見から |
| 10:00-11:00 (60分) | 基調セッション【同時通訳】 「コレクティブ・インパクト」の15年、そしてこれから | | | 09:30-10:20 (50分) | セッション⑪ ラベルから対話へ～デットのインパクトファイナンスにおけるエンゲージメントの最前線 |
| 11:10-12:00 (50分) | 協賛セッション① 農林水産業・地域活性化におけるインパクト創出・可視化の取り組み～農福連携の現場の声を通じて～ | 10:50-11:50 (60分) | セッション⑤ 資本が「めぐる」地域をどうつくるか — 地域資本循環とインパクトの新しい視点 — | 10:30-11:20 (50分) | 協賛セッション⑤ IMMの“壁”を越える — 実務者のリアルから紐解く、インパクト測定・マネジメントの実践知 |
| ～ ランチタイム ～ | | ～ ランチタイム ～ | | 11:30-12:20 (50分) | セッション⑫ こども視点が金融と社会を変える — 日本におけるChild-Lens Investing (CLI) の幕開けと官民共創の現在地 セッション⑬ 企業の社会的価値志向経営モデル |
| 13:00-13:50 (50分) | セッション① 新しい公益信託がはじまります！ ----- セッション② B Corpムーブメントがにらむ「次なる資本主義」 | 13:00-13:50 (50分) | セッション⑥【同時通訳】 進むTISFD基準の策定～ルール形成に関与するチャンス！ ----- セッション⑦ 民官共創による、地域における社会的インパクト創出の可能性を探る～「スポーツ」を活用した取り組み事例を通じて～ | 【懇親会 (SIMIエンゲージド・メンバー、登壇者、招待者限定)】 ・日時：6月18日 (木) 18:00-20:00 ・会場：笹川平和財団ビル10F社員食堂 | |
| 14:00-15:00 (60分) | スペシャルセッション① インパクトは何を変えたのか？ — 10年の軌跡と次の地平 | 14:00-14:50 (50分) | 協賛セッション③ ローカルスタートアップエコシステムはユニコーンを創出することが出来るのか？ — 地方の社会課題解決型スタートアップ企業成長のための課題解決を目指し— | | |
| 15:10-15:45 (35分) | 協賛セッション⑥ 「喜び」を生む体験設計が、持続的なインパクトを創出する — 競合が共創する「DO REPAIRS」に学ぶ、生活者発想の社会実装 | 15:00-15:50 (50分) | セッション⑧ Value to Society × Value to Business | | |
| 15:10-16:00 (50分) | セッション④ AI時代の社会的インパクト・マネジメントの設計論～価値形成・意味形成のプロセスを問い直す～ | 15:00-15:50 (50分) | セッション⑨ インパクトフィランソロピー：社会変革を生み出すために | | |
| 16:10-17:00 (50分) | 協賛セッション② インパクト“K”プロジェクト座談会 2026～実践から紡ぐ、インパクトの現場～ | 16:10-17:10 (60分) | 協賛セッション④【同時通訳】 インパクトの主流化へ～3メガバンクによるインパクトエコノミーの形成 | | |

6月17日（水）

09:40 - 10:00

【オープニング】

共創の航海、ここから始まる — Social Impact Day 10年の軌跡と次の地平へ

Social Impact Dayは2026年、10周年という節目を迎えます。本セッションでは、この10年間のSocial Impact Dayの歩みを振り返りながら、世界や日本におけるインパクト・エコノミーの進展と変化を共有します。その上で、今年のテーマ「共創の航海」に込めた意味を紐解き、セクターを超えた共創の重要性と、これからの社会変革の方向性を提示します。参加者一人ひとりが“担い手”としてこの航海に参加する意義を感じ、3日間の議論への期待を高める導入セッションです。



Speaker

渋澤健

コモンズ投信株式会社取締役会長、シブサワ・アンド・カンパニー代表取締役、一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ評議員

複数の外資系金融機関でマーケット業務に携わり、2001年にシブサワ・アンド・カンパニー株式会社を創業し代表取締役に就任。07年にコモンズ株式会社（現コモンズ投信株式会社）を創業、08年に会長に就任。経済同友会幹事、UNDP（国連開発計画）SDG Impact運営委員会委員、東京大学社会連携本部シニアアドバイザー、等。



Moderator

高木麻美

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、株式会社Stem for Leaves 代表取締役

大学、大学院修了後、コンサルティング会社、シンクタンクを経て2017年に独立。企業の経営支援を行うほか、社会的インパクト投資・評価に関する調査研究、実践支援等を行う。多摩大学サステナビリティ経営研究所客員研究員。

日英
同時通訳

6月17日(水)

10:00 - 11:00

【基調セッション】

「コレクティブ・インパクト」 の15年、そしてこれから

2011年、ジョン・カニアとマーク・クレイマーは『スタンフォード・ソーシャル・イノベーション・レビュー (SSIR)』において「コレクティブ・インパクト」という概念を提唱し、それは瞬く間に世界的な現象となりました。提唱から15年を経た今、本基調セッションではこの運動の変遷と成果、現状、そして実践の未来像を検証します。



本セッションのイントロダクションと登壇者の紹介は、LGBTQ、子どもの貧困、エクイティ等の領域でフリーランスとして活動されている佐藤淳氏とSIMI今田で行います。



Speaker

Jennifer Splansky
Juster 氏

Executive Director, Collective Impact Forum

ジェニファー・スプランスキー・ジャスター氏は、コレクティブ・インパクト分野において世界的に著名なリーダーであり、数多くのコレクティブ・インパクト・プロジェクトに携わり、設計した研修機会へ参加した実践者は1000人を超える。

組織戦略、評価、プログラム設計について、多くの財団、非営利団体、政府機関、企業を支援してきた。過去のクライアントには、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、コンラッド・N・ヒルトン財団、マリン・コミュニティ財団、ジラード・カレッジ、パッカード財団、シリコンバレー・アライズなどが含まれる。



Moderator

今田克司

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表 理事、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

米国(6年)、南アフリカ(5年半) 含め市民社会強化の分野でのNPO/NGOマネジメント歴25年。2013年帰国後、セクターを超えてインパクト・マネジメントの普及に尽力。現在、インパクト・コンソーシアム データ・指標分科会座長、日本評価学会副会長・研修委員長、休眠預金等活用法における指定活用団体評価アドバイザー、UNDP認定SDGインパクト基準トレーナー、国際協力機構(JICA) 事業評価外部有識者委員会委員、TISFD Regional Council メンバー (Asia-Pacific)、Blue Marble Evaluation Global Advisory Council 委員など。

6月17日(水)

11:10 - 12:00

【協賛セッション①】

農林水産業・地域活性化におけるインパクト創出・可視化の取り組み～農福連携の現場の声を通じて～

企業が事業を通じてインパクトを創出し、それを定量化・管理して企業価値向上につなげる「インパクト・マネジメント」の取り組みが加速しています。セッション前半では、農林中央金庫から第一次産業を支える金融機関としてポジティブなインパクト創出を重視する理由や関連する取り組み、インパクトサークルからインパクト可視化の重要性をご紹介します。セッション後半では、農林中央金庫前橋支店および農業法人・福祉事業者の皆様で推進している「農福連携」の取り組みについて、パネルディスカッションを実施します。「農業の人手不足」と「福祉の就労確保」という二つの社会課題の解決に向けて、現場で実際に価値を生み出している方々の声をお届けします。

【協賛：農林中央金庫】



Speaker

岡本純宜氏

農林中央金庫 経営企画部 サステナブル経営班 部長代理

2010年に農林中央金庫入庫。大阪支店・本店営業第四部・シンガポール支店にて法人融資、営業企画部にて海外・外貨融資の企画や企業向け融資にかかるサステナブルファイナンス企画業務を担当。2023年4月より経営企画部にて農林中央金庫自身のサステナビリティ戦略策定・情報開示を担当しており、農林中央金庫全体のインパクトファイナンスやインパクト評価にかかる戦略策定・企画・実践支援業務に従事。



Moderator
/ Speaker

中山彩華氏

農林中央金庫 経営企画部 サステナブル経営班

2021年に総合コンサルティングファームに入社。地方自治体・地方空港に対し、太陽光発電設備設置計画策定や二次交通における温室効果ガス削減計画等の脱炭素化に向けた計画策定支援に従事。2025年11月に農林中央金庫に入庫。経営企画部サステナブル経営班にて、サステナビリティ情報開示やインパクト評価にかかる戦略策定・企画・実践支援業務を担当。



Speaker

大村龍太郎氏

インパクトサークル株式会社 インパクト可視化事業部長 兼 経営企画室長

新生銀行にてコーポレートローン・デリバティブ営業を経て、LBOファイナンスなどストラクチャードファイナンスの組成、PEファンド向けのLP投資業務に従事。その後、新生企業投資にてスタートアップ投資業務に携わる。インパクトサークルに参画し、フィリピン・日本でのインパクトファイナンス事業の立ち上げ・管理・インパクト可視化に従事するとともに、VCファンド、上場企業、スタートアップ、NPOなどに対してインパクト可視化やインパクトマネジメントの支援を行う。



Speaker

長沼芳憲氏

株式会社長沼農園 代表取締役

高崎経済大学を卒業後、家業を継ぎ、2015年に株式会社長沼農園の代表取締役に就任。群馬県伊勢崎市にて、ネギ・ニラ・枝豆・米麦を中心に35haの農園経営を行っている。かねてより「障がい者・健常者ともに働きやすい環境づくり」を掲げ、特別支援学校の就労体験を受け入れており、2023年からは、福祉事業所への作業委託による農福連携にも着手。正社員や技能実習生の採用、農福連携など、多様な人材が活躍できる体制を構築し、さらなる事業拡大を目指す。



Speaker

尾内亮介氏

社会福祉法人キャッチジャパン 指定障害福祉サービス事業所ぶどうの木 企画部長

大学四年生のときに、学生アルバイトながら週五勤務の衆議院議員永田町事務所の私設秘書として、社会人の入り口に立つ。大学卒業後、大手建設会社建築営業、国際コンサルタント会社などを経験し、地元の医療機関に事務長として勤務。ダウン症の長男を授かることから障害福祉への興味が強くなり、20年勤務した医療機関を退職し、障害福祉の仕事へ。2023年にぶどうの木に入職し、現在に至る。



Speaker

戸田歩未氏

農林中央金庫 前橋支店 営業班

2020年に農林中央金庫前橋支店に入庫。総務班、コーポレートサービス班を経て、2023年4月より営業班にて農業者向け融資営業を担当。群馬県内の農業者向けに金融・非金融ソリューションを提供する中、労働力支援の一環として農福連携のマッチング支援を実施。2024年に農福連携の社会的インパクト評価を行うなど、金融と社会的インパクト創出の両立に取り組む。

6月17日(水)

13:00 - 13:50

【セッション①】

新しい公益信託がはじまります！

2026年4月に施行される新しい公益信託制度は、信託財産の範囲拡大や受託者の多様化など、大幅な制度刷新を通じて民間の公益活動をより柔軟に支える仕組みに生まれ変わります。

NPOやソーシャルセクターにとっては、寄付者の想いを反映した新たな資金受入の選択肢として活用でき、助成にとどまらない多様な公益活動への応用も可能となります。

本セッションでは、制度の最新ポイントと共に、実際に寄せられている相談事例を紹介しながら、現場での活用可能性を具体的に探ります。登壇者には制度所管の内閣府公益法人行政担当室次長を迎え、制度の背景と今後の展望をわかりやすく解説します。



大野卓氏

Speaker



三島理恵氏

Speaker



小柴優子氏

Moderator

内閣府公益法人行政担当室次長

内閣府公益法人行政担当室次長。行政不服審査法の見直しや行政の情報公開、規制改革ではハンコの見直しにも携わり霞が関の界隈に30年ほど。公益法人関係の仕事に携わったのは、「天下り問題」と「仕分け」に翻弄された時代も含めて合計8年。公益認定の現場では、勧告や不認定など厳しい仕事もしました。公益信託制度は、9年前に自分も参画した研究会で検討が始まり、法案の策定から本年4月の施行に至るまで関わっており、格別の思い入れがあります。

「民間公益は成長産業」という言葉を胸に取り組んでいます。

認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ 理事長

寄付文化の醸成を目的として2009年に設立された日本ファンドレイジング協会(JFRA)創立メンバー。企業、NPO、行政、国際機関などが協働する寄付キャンペーン「寄付月間-Giving December-」の立ち上げ等に尽力。「困った時に助けてくれる人がいると思える社会の実現」に向けて活動をする中で、子ども食堂との出会いがあり、むすびえの立ち上げに参画。むすびえでは、休眠預金事業のプログラムオフィサー、「イオン子ども食堂応援団」の立ち上げ等複数のプロジェクトリーダーを担う。神奈川県福祉子どもみらい局戦略アドバイザー(2023年6月~2024年3月)。認定ファンドレイザー。新公益連盟共同代表理事。広島県尾道市在住。

内閣府公益認定等委員会事務局上席政策企画官、 フィランソロピーアドバイザーズ株式会社代表取締役

日本GE、米国コロンビア大学 国際公共政策大学院卒業。大学院時代、Rockefeller Philanthropy Advisorsにてインターン、そして、ジョージ・ソロスのオープン・ソサエティ財団にてコンサルタントとして勤務。帰国後、日本財団と、関連財団の社会変革推進財団(SIIF)にてインパクト投資の推進を行う。現在は、内閣府公益認定等委員会事務局にて上席政策企画官として(非常勤職員)として関与。公益信託班にて、新しい公益信託制度の推進を行う。日本人で初めて米国フィランソロピー・アドバイザー資格CAP®を取得。Forbes 2025年NEXT 100に選出。

6月17日(水)

13:00 - 13:50

【セッション②】

B Corpムーブメントがにらむ 「次なる資本主義」

世界のB Corpムーブメントは、Business as a Force for Goodを合言葉に、資本主義が自然環境を含めたすべてのステークホルダーのために機能するように、あらゆる産業におけるB Corpの広がり力を入れています。日本においても2020年前後から有志が活発な動きを見せ、2024年にB Market Builder Japanが新チーム体制となり、日本のB Corpコミュニティの深化が進んでいます。2025年末の時点で、日本のB Corp数は71社に達し、ここ2年で倍増しました。本セッションでは、このような日本におけるB Corpの広がりを、バリューチェーンを上流から下流までを俯瞰し、「次なる資本主義」のビジネスモデルとして、価値創造が個別企業の単位を超えて連なり、行動の連鎖を形成していく姿を構想したいと考えます。

【セッション共催：B Market Builder Japan ステークホルダー資本主義研究会】



Speaker

溝渕由樹氏

B Market Builder Japan 共同代表/株式会社ovgo 創業者

三井物産勤務を経て大好物であるクッキーを環境にも社会にも優しい100%プラントベースで提供する「ovgo Baker」を創業し、B Corp認証を取得。2024年一般社団法人B Market Builder Japan 代表理事（共同代表）に就任。

<https://bcorporation.jp>



Speaker

井出雅文氏

株式会社加茂谷スダチパーク 代表取締役

東京でキャリアコンサルタントとして勤務後、徳島へUターンし、すだちの生産危機や産地過疎という課題を人の成長機会へ転換する活動を行う。交流や意味を求めて世界中を移動する人々との「すだち幼木1000本植栽」を機に、地元小学校での異文化交流授業、企業研修、農作業のロボット化、住民らと農泊プロジェクトなどの文化交流拠点作りを推進。「世界中を移動するライフスタイルと農村保全のモデルケース」を目指し、日本の農村の価値創出に尽力している。

<https://kamodani-sudachi.jp/>



Speaker

中村賢治氏

株式会社エヌ・ケー 代表取締役

家業の建築会社で施工管理・グループリーダーとして現場を統括。株式会社ザンビ機工へ転じ、営業・皮革用ミシンのメンテナンス・部品加工・経理・役員を歴任。その後、個人事業主として工業用ミシン・機械の販売や工場の支援、特殊裁断・デジタル裁断の分野で国内外のブランドへ技術を提供。2009年、株式会社エヌ・ケーを設立。超精密デジタル裁断と高品質縫製を強みとしたハンドバッグ・小物の企画製造を手がける。「自然環境・地域社会と共生するモノづくり」を経営の軸に据え、国際的なモノづくり支援にも活動の幅を広げている。

<https://www.nktokyo.com/>



Moderator

岡望美氏

B Corp認証取得支援コンサルタント

外資系及政府系金融機関、日系メーカー、スタートアップと幅広い経験・知見を活かし、様々な企業規模・業種の日本企業のB Corp認証取得を支援。

<https://bthechgjapan.net/>

6月17日(水)

14:00 - 15:00

【スペシャルセッション①】

インパクトは何を変えたのか？ — 10年の軌跡と次の地平

この10年、社会的インパクトはどこまで社会を動かしたのでしょうか。本セッションでは、制度化の進展、インパクト投資の拡大、IMMの実装、そして形骸化や手法偏重への違和感までを含め、国内外の「あれやこれや」を率直に振り返ります。SIMI理事との四方山話を通じて、成果と課題の現在地を確認し、次の地平を構想する場とします。



今田克司

Speaker

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

米国(6年)、南アフリカ(5年半) 含め市民社会強化の分野でのNPO/NGOマネジメント歴25年。2013年帰国後、セクターを超えてインパクト・マネジメントの普及に尽力。現在、インパクト・コンソーシアム データ・指標分科会座長、日本評価学会副会長・研修委員長、休眠預金等活用法における指定活用団体評価アドバイザー、UNDP認定SDGインパクト基準トレーナー、国際協力機構(JICA) 事業評価外部有識者委員会委員、TISFD Regional Council メンバー(Asia-Pacific)、Blue Marble Evaluation Global Advisory Council 委員など。



伊藤健

Speaker

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン 代表理事、同志社大学大学院 総合政策科学研究科客員教授

大学卒業後、日系メーカー勤務を経て、米国Thunderbird Global School of Managementにて経営学修士課程を修了後、GE Internationalに入社。シックス・シグマ手法を使った業務改善や、コーポレート・ファイナンス部門で企業買収後の事業統合等を行う。2008年GE社を退職、NPO法人ISL社会イノベーションセンターを経て、2010年より慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任助教。2023年-2024年 特任准教授。主に社会的インパクト評価を中心に研究し、2014年-2015年には、G8社会的インパクト投資タスクフォース日本諮問委員会の事務局、2015年経済産業省「ヘルスケア分野におけるソーシャル・インパクト・ボンドに関する検討会」委員長、内閣府「共助社会づくり懇談会 社会的インパクト評価検討WG」委員会主査を務めるなど、日本の社会的インパクト評価、ソーシャルインパクトボンド、社会的投資の普及促進に尽力している。



幸地正樹

Speaker

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、ケイスリー株式会社 代表取締役

PwCコンサルティングで官公庁向け戦略策定等の経験を経て、2016年ケイスリー創業。行政、投資家や財団、企業やNPOなど多様な団体と協働し、インパクト投資やインパクト測定・マネジメント(IMM)、成果連動型官民連携事業(PFS/SIB)の導入支援など、社会課題解決を軸にしたコンサルティングサービスを提供する。その他、琉球大学非常勤講師(専門:インパクト投資/SIB)、内閣府PFSアクションプラン検討会議民間有識者、内閣府市町村施策支援アドバイザー等を兼務。沖縄県中頭郡読谷村在住。



高木麻美

Speaker

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、株式会社Stem for Leaves 代表取締役

大学、大学院修了後、コンサルティング会社、シンクタンクを経て2017年に独立。企業の経営支援を行うほか、社会的インパクト投資・評価に関する調査研究、実践支援等を行う。多摩大学サステナビリティ経営研究所客員研究員。



鴨崎貴泰

Moderator

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 専務理事、認定NPO法人日本ファンドレイジング協会 常務理事/社会的インパクトセンター長、長野県立大学客員准教授

グロービス経営大学院卒業(MBA)。環境コンサルティング会社を経て、2009年公益財団法人信頼資本財団に設立時より参画し事務局長を務め、社会起業家に対する無利子・無担保融資事業やNPOのファンドレイジング支援事業を行う。2014年NPO法人日本ファンドレイジング協会へ入職し事務局長を務め、2019年からは常務理事も兼務。2020年5月からは合同会社シッカイヤを創業して代表に就任。SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)の日本導入や社会的インパクト評価・マネジメントの推進などに従事。

6月17日(水)

15:10 - 15:45

【協賛セッション⑥】

「喜び」を生む体験設計が、持続的なインパクトを創出する — 競合が共創する「DO REPAIRS」に学ぶ、生活者発想の社会実装

「DO REPAIRS」とは、ものを大切に使い続ける文化の醸成を目指し、ブランドの垣根を越えてリペアやメンテナンスを提案する共創プロジェクトです。これまでに4回開催され、THE NORTH FACEやARC'TERYXをはじめとする27のブランドや団体が参画。本セッションでは、本来競合するブランド同士が、なぜ共通の目的のもとに共創を継続・拡大できているのか、現場の葛藤や協働の工夫を深掘りします。単なる啓発や社会貢献に留まらず、ブランドの感性や生活者の愛着に接続することで、いかにして「価値観の自然な更新」を促してきたのか。日本におけるコレクティブ・インパクトの第一人者・佐藤淳氏を交え、日本独自のコレクティブ・インパクトの実践論を明らかにします。

【協賛：株式会社博報堂】



Speaker

平田健夫氏

株式会社CYKLUS 代表取締役社長

大学卒業後、アパレルおよびアウトドア企業4社にて、営業、製品企画、マーケティング、循環型ビジネスの構築に従事。2024年に合同会社サイクルスを設立し、アパレル企業へのサーキュラービジネス支援や、地域循環コミュニティの構築に携わり、より良い循環のカルチャーと仕組みの社会実装を推進している。



Speaker

山下浩平氏

株式会社ゴールドウインザ・ノース・フェイス マーケティング部長

1983年生まれ。学生時代をドイツやアメリカで過ごし、海外生活を通じて多様な環境の中でのコミュニケーション力や人間力を培う。帰国後は複数企業でキャリアを積み、趣味のクライミングを通じて自然の中で過ごす素晴らしさを広めたいという思いから、株式会社ゴールドウインへ転職。13年間にわたりTHE NORTH FACEブランドに従事。前半の8年間はアパレルの製品企画を担当し、事業運営に携わる。その後はマーケティング領域へ転身し、現在は同ブランドにおけるマーケティング統括として、ブランド戦略やコミュニケーション設計を担当している。



Speaker

吉村真由氏

株式会社博報堂Gravity SXプロデューサー

スタートアップでの事業開発を経て、博報堂Gravityに入社。現在はクライアントと伴走しながらビジネスとコミュニケーションの両面からプロジェクトを推進するとともに、ファッション×サステナビリティ領域のSX企画・開発を担当。また、博報堂グループ横断組織「博報堂SXプロフェッショナルズ」に参画。コミュニケーションを通じて、社会課題を「正しさ」ではなく「選びたい価値」に翻訳する。単なる一方的な啓発ではなく、感性に届くアプローチで生活者のパーセプションチェンジを促し、社会とモノとの関係が豊かに再構築されていく未来を目指している。



Moderator

佐藤淳氏

フリーランス/4法人で活動 (LGBTQ、子どもの貧困、エクイティ等の領域)

変容の共踊者として根源的な社会システム変容を探究。高校卒業後から約30の社会変容に取り組む組織で活動。一般社団法人RCFにて東北復興等の協働事業や社会的企業・NPOの連盟組織である新公益連盟の立上げに5年ほど従事。2020年独立後、共創(Collective Impact)での社会変容の実装や伴走、2社で経営側を経験。神奈川県茅ヶ崎市出身、2児の父。

6月17日(水)

15:10 - 16:00

【セッション④】

AI時代の社会的インパクト・マネジメントの設計論 ～価値形成・意味形成のプロセスを問い直す～

様々な領域でAI活用が広がる中、社会的インパクト・マネジメント（SIM）も例外ではありません。AIが実務に組み込まれつつある今、私たちSIM実践者は、自らの役割と、これまで価値や合意をどのように形づくってきたのかを問い直す必要があります。本セッションでは、目的設定・評価設計・報告の各段階で、主体性や合意形成がどこで揺らぐのかを見つめます。そのうえで、AIを単なる効率化の道具としてではなく、価値形成や意味形成にどう関わるものとして位置づけるのかを問い、AIとの協働について考えます。



伊藤泰久氏

Speaker

認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ・インパクトオフィサー

25年以上にわたり、UXデザイナー兼リサーチャーとして人間中心設計（HCD）の実践に従事。ヘルスケア領域でのアウトカム評価をきっかけに、ユーザーの体験価値を社会的な価値へと昇華させるプロセスのデザインに深く関心を持ち、社会的インパクト・マネジメント（SIM）へと専門領域を広げる。2024年より現職のIMMチームにて、各事業やプロジェクトのロジックモデル策定や評価指標設計、インパクト・マネジメントを担当。日本評価学会認定 評価士、HCD-Net認定 人間中心設計専門家。



長井英之氏

Speaker

一般社団法人オープンデータラボ 理事・事務局長、合同会社シェアード・エスイー 代表社員

福島県福島市出身。大日本印刷株式会社、株式会社マクロミル、株式会社リクルートドクターズキャリアを経て、東日本大震災を契機に福島市で合同会社シェアード・エスイーを設立。大学におけるAI教育に携わるほか、社会調査、EBPM支援、社会的インパクト評価にも取り組んでいる。



千葉直紀

Moderator

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ事務局、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン・代表取締役

P社会的インパクト・マネジメント/IMM（インパクト測定・マネジメント）および評価を軸として、ソーシャルセクター（NPO/NGO/ソーシャルビジネス）、ビジネスセクター（大企業/中小企業）、金融セクター、パブリックセクターなどを広く渡りながら、社会の諸課題が解決されるような実務支援（社会的インパクトを創出するための戦略構築や評価伴走支援）や人材育成（IMM研修や評価研修）を得意としている。社会的事業に関する評価のあり方や認証制度等に関する国内外の調査を広く行ってきている。

6月17日(水)

16:10 - 17:00

【協賛セッション②】

インパクト“K”プロジェクト座談会 2026～実践から紡ぐ、インパクトの現場～

今年も開催します！毎年恒例の「インパクト“K”プロジェクト座談会」。
かんぼ生命によるインパクト投資の社内認証フレームワーク「インパクト“K”プロジェクト」。本座談会では、同認証を取得したファンドの皆さまをお迎えし、インパクト志向を実装してきた実践者とかんぼ生命が、投資家とアセットオーナー双方の視点から経験やノウハウを率直に共有し、インパクト投資の現場における「リアル」を語ります！

【協賛：株式会社かんぼ生命保険】



高塚清佳氏

Speaker

インパクト・キャピタル株式会社 代表取締役

2004年より現SBI新生銀行グループ。不良債権投資、不動産証券化、ベンチャー／バイアウト投資などを担当。2017年に邦銀系初のインパクト投資ファンド「子育て支援ファンド」、2019年に2号「はたらくFUND」を設立。2024年2月に独立しインパクト・キャピタル(株)を始動。同年5月に「人」の「Well-Being」を追い求める「インパクト・キャピタル1号」を設立。金融庁「インパクト投資等に関する検討会」委員、経産省「J-Startup Impact」選定委員、JANPIA「休眠預金活用資金分配団体(出資)投資審査会」委員など。日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2019」受賞。



川本めぐみ氏

Speaker

日本PMIパートナーズ株式会社 ディレクター兼インパクトオフィサー

熊本大学医学部卒業後、臨床研修の期間を含め6年間、臨床医として病院に勤務。その後、厚生労働省に入省、医系技官として本省・地方自治体・地方厚生局等での勤務を経験。主に健康政策や医療政策の計画作成・管理に関わる業務等に従事してきた。医療領域における課題解決にこれまでとは異なる視点から取り組みたいと思い、2024年より日本PMIパートナーズに参画。現在は社内におけるインパクト投資に関する業務や投資先のPMI業務を主に担当している。



小林巧氏

Speaker

株式会社かんぼ生命保険 運用企画部 責任投資推進室 室長

大学卒業後、地方銀行にて個人・法人営業を経験。2009年にかんぼ生命に入社し、資産運用部門で国内外企業を対象としたクレジット・アナリスト業務に従事。外部出向を経て、海外企業の調査・分析業務や国内外社債投資のファンドマネジメント業務を経験し、2022年から責任投資推進室に着任。サステナブル投資・責任投資の推進体制構築、同投資方針・計画の策定、インパクト投資に関する社内体制の整備などを推進。



高木麻美

Moderator

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、株式会社Stem for Leaves 代表取締役

大学、大学院修了後、コンサルティング会社、シンクタンクを経て2017年に独立。企業の経営支援を行うほか、社会的インパクト投資・評価に関する調査研究、実践支援等を行う。多摩大学サステナビリティ経営研究所客員研究員。

6月18日(木)

09:30 - 10:40

【スペシャルセッション②】

日本のインパクト・ エコノミー10年の歩み

今年初めに、オックスフォード大学サイド・ビジネス・スクールの講師陣によって、日本のインパクト・エコノミー10年の歩みをまとめた事例・映像シリーズがスコール社会起業家センターから公開されました。本ケース・映像シリーズは、国内外の研究者・実務家向けに体系的に整理・分析したもので、オックスフォードインパクト投資プログラムの教材として採用されました。本セッションでは、同ケース・映像シリーズを題材に、日本におけるインパクト投資・エコノミーのエコシステム構築の10年を振り返り、今後10年はどうあるべきか、日本が世界各国に伝えられることがあるとすれば何なのかを日本のインパクト・エコノミー推進を担ってきた実践者たちの間で対話します。



Speaker

五十嵐剛志氏

KIBOW社会投資ファンドインベストメントプロフェッショナル、 インパクトスタートアップ協会 監事

スタートアップに対するインパクト投資に従事。慶應義塾大学経済学部卒業、オックスフォード大学MBA修了。PwCあらた有限責任監査法人、内閣府、ハーバードビジネススクール Impact-weighted Accounts Initiative、英国政府系インパクト投資機関Big Society Capital等を経て現職。社会的インパクトマネジメントイニシアチブグローバルリソースセンターリサーチフェロー。内閣官房「インパクト投資とグローバルヘルス」研究会委員、金融庁「インパクトコンソーシアム」データ・指標分科会ディスカッションメンバーを歴任。Forbes JAPAN「インパクト・エコノミーの未来を創る100人」選出。公認会計士。



Speaker

野池雅人氏

プラスソーシャルインベストメント株式会社 代表取締役

大阪市教育振興公社（人権教育・啓発担当）、NPO法人きょうとNPOセンター、公益財団法人京都地域創造基金を経て現職。

長くNPO法人や公益財団法人において市民セクターの組織基盤を強化するための融資制度・寄付・社会的投資の仕組みづくりを担当。

2016年4月にはプラスソーシャルインベストメント株式会社を設立、代表取締役に就任。社会的投資やインパクトファンドを通じた社会起業家支援を行う。京都大学公共政策大学院、関西学院大学大学院経営戦略研究科非常勤講師等。



Moderator

菅野文美氏

公益財団法人社会変革推進財団（SIIF）SIIFグローバルヘッド

2017年7月に当財団に参画し、インパクトVCファンド「はたらくFUND」にパートナーとして従事する他、SIIFの注力課題領域におけるシステムチェンジやインパクト・エコノミーへの移行に向け、グローバルな先駆者や業界団体との連携をリードする。

SIIFに参画する前は、日本総合研究所にて日本企業による新興国インパクトビジネスの立ち上げ支援、インパクト投資の研究、ESGリサーチを担当。その前は、フランス系銀行デクシア東京支店にてリスクマネジメント業務に従事。職業人生の起点として、国際NGOプラン・チャイナ職員として中国農村部における教育やインパクト評価事業に携わる。東京大学卒業、国立台湾大学国際華語研修所修了、コロンビア大学国際・公共政策大学院にて国際関係修士取得。

6月18日(木)

10:50 - 11:50

【セッション⑤】

資本が「めぐる」地域をどう つくるか —地域資本循環とイン パクトの新しい視点—

人口減少や資源制約が進む中、地域の持続可能性に向けた取り組みが各地で模索されています。近年では、地域にある自然・文化・人材といった資本を事業に生かし、その成果を地域に還流させる「地域資本循環」という考え方にも注目が集まっています。本セッションでは、この循環そのものをインパクトの一つの捉え方として位置づけ、東近江三方よし基金や石見銀山群言堂の実践をもとに、地域の関係者の共創によって地域資本循環を興すことの意義やローカル・ゼブラの役割を紐解きます。あわせて、こうした動きに対して大手企業がどのような視点で関わりうるのか、政策的な位置づけとともに議論します。



Speaker

伊奈友子氏

経済産業省 中小企業庁 商業課長

経済産業省入省後、中小企業政策、ものづくり政策などの分野を幅広く担当。2023年より、地域の課題解決の担い手である、ローカル・ゼブラ企業概念を提唱し、その育成や社会的インパクトの可視化を通じた地域経済循環の実現に取り組む。



Speaker

山口美知子氏

東近江三方よし基金 常務理事 兼 業務執行理事

滋賀県生まれ。東京農工大学大学院修了。1998年に林業技師として滋賀県入庁。林業事務所、琵琶湖環境政策室などを経て、2012年東近江市職員となる。2019年から創設に関わった公益財団法人の常務理事に就任。2021年3月に市役所を退職。その他、一般社団法人kikito、NPO法人まちづくりネット東近江等の活動に参加。



Speaker

松場忠氏

株式会社石見銀山 群言堂グループ 代表取締役社長

1984年佐賀県鹿島市生まれ。佐賀県立鹿島高等学校卒業、文化服装学院シューズデザイン科卒業。シューズメーカーで靴職人として勤務。その後独立し、妻との結婚後に妻の両親が経営していた株式会社石見銀山生活文化研究所(群言堂)に入社。飲食店の立ち上げ、広報、新ブランド設立などを担当し、2019年、地域観光に特化した株式会社石見銀山生活観光研究所を設立。2022年、株式会社石見銀山群言堂グループ代表取締役に就任。2024年、行政と連携した地域経営をテーマに株式会社石見銀山地域経営研究所を設立。



Speaker

福田晋平氏

ヤマハ発動機株式会社 技術・デザイン統合戦略部 共創推進グループリーダー

工学系大学院卒業、大学発ベンチャーを経てヤマハ発動機株式会社に入社。技術戦略立案や電動車両開発企画を経て、現職の新規事業部門に至る。財務資本だけでなく自然資本や関係資本を指標にした共創事業開発に従事。Regenerativeをキーワードに「地球がよるこぶ、遊びをつくる」をミッションステートメントに据えて活動中。2024年に開所した横浜みなとみらいの共創スペース「リジェラボ」の責任者。オウンドメディア「RePLAY」も管轄。趣味は得意の手料理を活かしたコミュニケーションの創造。



Speaker

平喜之氏

八千代エンジニアリング株式会社 事業開発本部開発推進部 マネージャー 兼 SISI Innovations 株式会社 プリンシパル

横浜市立大学卒業。不動産業界で事業企画・サービス開発を経験後、八千代エンジニアリング株式会社に入社。経営戦略室で中期経営計画や人事制度策定に携わり、現在は事業開発本部にて新規事業開発とオープンイノベーション推進を担う。2025年より、インパクトCVCであるSISI Innovations株式会社を創設時より兼務し、これまで十分に価値づけられてこなかった自然資本や社会関係資本を基盤に、持続可能な社会変革の実装を目指している。大学院大学至善館(MBA)在学中。



Moderator

北原菜由香氏

PwCコンサルティング合同会社 シニアマネージャー

国内シンクタンクを経て現職。ソーシャル・インパクト・イニシアチブのコアメンバーとして、社会的価値と経済的価値の両立を志向した事業創出や連携のあり方の検討を支援。上場企業のインパクトKPI策定やNPOの戦略立案、インパクト投資の推進などに携わるほか、ローカル・ゼブラをはじめとする地域主体の取り組みに関する調査・実証を通じて、インパクトを起点とした資金や人材、事業の循環のあり方の整理や、価値の可視化に取り組む。企業・金融機関・行政・NPOなど多様な主体をつなぐ支援に従事。

6月18日(木)

13:00 - 13:50

日英
同時通訳

【セッション⑥】

進むTISFD基準の策定～ ルール形成に関与するチ ャンス！

新たなグローバル・サステナビリティ開示基準であるTISFD（不平等および社会関連財務開示タスクフォース）は2024年秋より始動し、基準制定に向けた作業が始まっています。2027年末のフレームワーク発効を見据え、2026年5月にベータ版フレームワーク（バージョン1）が発表されました。

本セッションでは、フレームワーク構築の最新状況に加え、イニシアチブ全体および日本企業にとって特に重要なポイントについて説明します。このセッション参加を機に、ベータ版フレームワークに対するコメントが多く寄せられることが期待されます。

* SIMIはTISFDアライアンスのメンバーであり、代表理事の今田はTISFDアジア太平洋地域別協議会のメンバーの一員になっています。



Bernadette
Victorio 氏

Speaker



木村武 氏

Speaker



Zhen Lee
氏

Moderator

APAC Engagement Lead, TISFD

Bernadette Victorio氏は、アジア太平洋地域において多国間プログラムやパートナーシップを主導してきた15年以上の経験を持つ、国際開発およびサステナブル・ファイナンスの専門家です。アジア開発銀行研究所（ADB）、ドイツ国際協力公社（GIZ）、金融包摂アライアンス（AFI）などの機関で、サステナブル・ファイナンスおよびインクルーシブ・ファイナンス、ビジネスと人権、企業の説明責任といった分野に注力してきました。ジェンダー平等と社会正義の強力な提唱者として、Bernadetteは、公平な金融システムの構築において女性の声とリーダーシップを拡大することに尽力しています。彼女はTISFDのアジア太平洋地域エンゲージメント・リードを務めると同時に、オックスファムの「フェア・ファイナンス・アジア・プログラム」の責任者も兼任しています。同プログラムは、10カ国と90以上の市民社会パートナーを網羅する地域イニシアチブであり、サステナブル・ファイナンスと責任あるクロスボーダー投資を推進しています。

日本生命保険 常務執行役員、PRI（国連責任投資原則）理事、 TISFD 運営委員会メンバー

1989年に日本銀行入行。米国連邦準備制度理事会（FRB）出向を経て、企画局政策調査課長、金融機構局審議役、決済機構局長を歴任。この間、FSB/AGV（金融安定理事会、脆弱性分析グループ）やBIS/CPMI（国際決済銀行、決済・市場インフラ委員会）のメンバーとして活動。2020年に日本生命保険に入社。2021年からPRI理事に就任。2025年からTISFD運営委員会メンバーとして活動。工学博士。経済学修士。

SIMIフェロー、AVPNインパクト投資・ブレンドドファイナンス チームマネージャー

Zhen Lee氏は現在、アジア全域でインパクト創出のための資本動員に取り組むシンガポール本拠のネットワーク組織AVPNにおいて、インパクト投資・ブレンドドファイナンスチームのマネージャーを務めている。

AVPN加入前は、ジュネーブの国連社会開発研究所（UNRISD）に勤務。持続可能性報告およびインパクト管理フレームワークのための不平等・社会関連指標に関する研究、ならびに政策立案者向け代替経済モデルの研究に貢献した。キャリア初期にはマレーシアのKPMGでガバナンス・サステナビリティコンサルティングに従事、世界持続可能開発企業協議会（WBCSD）の在籍等の経歴をもつ。

6月18日(木)

13:00 - 13:50

【セッション⑦】

民官共創による、地域における社会的インパクト創出の可能性を探る～「スポーツ」を活用した取り組み事例を通じて～

社会課題が多様化・複雑化する中で、特に地域においては人口減少・過疎化による担い手不足が深刻化しており、それが地域の経済・コミュニティ・行政サービスの更なる縮小という悪循環に繋がっており、ひいては日本全体の活力・国力の低下にも影響しています。そのような中、民（企業・住民・大学・NPO等）と、官（府省庁・自治体等）が相互の特徴や強みを活かし合いながら連携する「民官共創」による課題解決・新たな価値創造の必要性が高まり、実際に様々な主体の連携による課題解決の取組が推進されています。その中で、スポーツは世代や立場を越えて人々を巻き込み、多様なステークホルダーをつなぐ接点となる、大きな可能性を持つ存在として注目されています。

本セッションでは、地域の抱える課題を起点としつつ、多様なステークホルダーの入口としての機能が期待される「スポーツの活用」を軸に、民官共創による地域での社会的インパクト創出の可能性を探ります。



川島興介氏

Speaker



上井雄太氏

Speaker



千田領一郎

Moderator

中央日本土地建物株式会社 都市開発事業第一部 虎ノ門・新橋 まちづくり事業室リーダー 兼 一般社団法人官民共創HUB 事務局員

慶應義塾大学法学部法律学科卒。新卒で国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）に入職。総務部法務課にて社内規程類改正調整や、海外宇宙機関との協定締結業務等に従事。その後、内閣府宇宙戦略室（当時）に出向し、国内宇宙2法の起草から国会成立まで一貫通貫で対応。JAXAに帰任後、研究戦略部にてJAXA全体の研究に関するオープンイノベーションの推進を担い、また、JAXA初のクラウドファンディング制度設立。2019年に中央日本土地建物株式会社に転職し、現在は2027年度竣工予定の虎ノ門一丁目東地区市街地再開発事業「TORANOGATE（トラノゲート）」の中核施設「Tolaza」のプログラム開発に従事。

株式会社shikakeru CEO

2013年、フューチャーセッションズ入社。IAF認定プロフェッショナル・ファシリテーターとして、企業・行政・市民が手を取り合う「対話と共創」の場を数多く創出。2017年からはスポーツ共創ファシリテーターとしてJリーグの社会連携（シャレン!）を支援。2023年、「スポーツ×サステナビリティ×アクション」を掲げ、株式会社shikakeruを創業。第1弾として湘南ベルマーレとSDGs教育「サステナトレセン」を立ち上げ、現在は「サステレジャパン」として全国5クラブへ展開。スポーツの力を活かし、持続可能な未来への「仕掛け」を全国で加速させている。

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ事務局 スタッフ、Japan Impact Institute プログラムマネージャー（認定特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会）

Japan Impact Institute（JII）では、社会的インパクト評価やインパクト投資、SDGインパクト推進に関する業務を担当。前職では、銀行業に約12年、ESG／SDGsコンサルタント業に約1年半ほど従事。日本評価学会認定評価士、准認定ファンドレイザー。社会的インパクト・イニシアチブ（SIMI）事務局スタッフ。

6月18日（木）

14:00 - 14:50

【協賛セッション③】

ローカルスタートアップエコシステムはユニコーンを創出することが出来るのか？ —地方の社会課題解決型スタートアップ企業成長のための課題解決を目指し—

日本では「スタートアップ育成5か年計画」などの政策的後押しを背景に、各地でローカルスタートアップエコシステムの構築が進んでいます。しかし、地方のスタートアップは市場規模や人材、資金調達の制約から、成長のスケールを描きにくい現実があります。グローバル展開や海外VCからの資金呼び込みの重要性が指摘される一方で、それだけで地方発ユニコーンは生まれるのでしょうか。本セッションでは、地方のリアルな課題感を起点に、社会課題解決と企業成長を両立するために必要な戦略、支援、連携のあり方を議論します。

【協賛：野村アセットマネジメント株式会社】



Speaker

西岡賢氏



Speaker

小崎亜依子氏



Speaker

西岡大穂氏



Moderator

今村敏之氏

株式会社広島ベンチャーキャピタル 代表取締役社長

1990年、広島証券取引所に入所。上場審査や上場会社のディスクロージャー等の上場関連業務を担当。2000年、広島証券取引所の閉鎖により広島銀行入行。同時に、ひろぎんキャピタル（現、当社）に出向し、その後10年間、ベンチャー投資に従事。2010年、銀行本部のベンチャー・産学官連携業務を経験し、2017年に広島ベンチャーキャピタルに復帰、2024年代表取締役社長に就任。地方におけるIPOやベンチャー・スタートアップ支援に一貫して携わるなか、コワーキング施設「hiromalab」の運営など、ベンチャーキャピタルとしての活動を軸にしながら、より幅広い活動により地域の活性化に貢献すべく日々精進している。

JANPIA 出資事業部長

2024年1月より、JANPIAにて日本におけるインパクトファーストなインパクト投資市場の創造を推進。サステナブルファイナンスの専門家として2007年より日本総合研究所においてESG分析手法の開発に従事し、金融機関・機関投資家のESG投資戦略立案や商品開発を幅広く支援。2020年から2022年にかけては金融庁のサステナブルファイナンス専門チームの立ち上げと関連政策の策定に貢献。ピッツバーグ大学公共政策国際関係大学院修士課程修了、慶應義塾大学総合政策学部卒業。公益社団法人日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）。

ONESTRUCTURE株式会社 代表取締役CEO

1997年生まれ。鳥取大学在学中に「建設とテクノロジーの架け橋になる」をミッションとするONESTRUCTURE株式会社を創業。その後、株式会社リクルートに入社。エンジニアを経験後、株式会社リクルートMUFGビジネスにも出向し、新規事業に携わる。2024年に株式会社リクルートおよび株式会社リクルートMUFGビジネスを退社し、ONESTRUCTUREに専念。「鳥取から世界へ」という想いのもと、会社としてもインパクト主義を掲げ、社会インパクトの測定・可視化へのチャレンジに取り組み中。

野村アセットマネジメント スタートアップ投資室長

1994年、野村アセットマネジメント入社。国内公的年金基金向けの日本株式・外国株式運用に従事した後、2003年よりニューヨークで運用調査業務を担当し、主に米国株式の調査に携わる。2006年帰国後はグループ会社にて投資信託の分析評価業務に従事し、外国株式ファンド分析を中心に担当。2008年12月より同社ロンドン支店長。2013年4月に野村アセットマネジメントへ復帰し運用企画部長、2016年4月より責任投資調査を立ち上げ部長を務める。2024年7月、上場・未上場市場の垣根を超え、日本のスタートアップ企業の持続的成長を実現するエコシステム構築を目指してスタートアップ投資室を立ち上げ、責任投資調査部長兼スタートアップ投資室長に就任。2025年4月よりスタートアップ投資室長専任（現任）。

日英
同時通訳

6月18日(木)

15:00 - 15:50



Speaker

菅原瑠美氏

公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ (B.LEAGUE) ゼネラルマネージャー (担当役員)

2016年に公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグに入社。以来、MD、営業、事業開発などを経て、2025年よりゼネラルマネージャー(担当役員)に就任。現在は新規営業・新規事業・SR推進グループを担当。前職は化粧品会社にてマーケティングに従事。

【セッション⑧】

Value to Society × Value to Business

企業価値と社会価値は、どうすれば同時に語れるのか。

本セッションでは、SIMIのインパクト会計セミナーシリーズでの議論を踏まえ、Value to Business / Value to Societyの視点から、企業活動が生み出す価値をどのように可視化し、意思決定へ統合していくのかを探ります。異なる業界の実践を交えながら、インパクトの貨幣換算がもたらす可能性と限界を問い直します。



Speaker

大杉健一氏

株式会社アドバンテスト サステナビリティ推進室 ESGマネージャー

JICAでキャリアを開始し、30年以上にわたり新興国・途上国で国際協力およびインパクト投資に従事。クロスボーダーM&Aやプロジェクトファイナンスを通じ、サステナビリティの実装をリード。公的・民間双方の経験を基盤に、近年はインパクト会計の企業導入や国際機関との連携を推進。立教大学大学院人工知能科学研究科を修了し、サステナビリティとAIの融合領域に取り組む。現在はアドバンテストにて、インパクトの貨幣換算を含む可視化と意思決定への統合に加え、「from Me」を通じた意思決定と社会の関係性の体験的設計を推進している。



Speaker

Christian Heller 氏

CEO Value Balancing Alliance e.V. / Vice President BASF SE

Value Balancing AllianceのCEOであり、化学大手BASF副社長を務める。企業戦略、財務、サステナビリティ、会計、基準策定、政策立案の分野において、持続可能な価値創造に取り組む、世界的に幅広い人脈を持つビジネスリーダー・ビジネスリーダーである。哲学を専攻し、過去10年にわたり価値測定・評価・会計モデルの構築と実装に従事し、BASFの「Value-to-Society」プログラムの開発や「Impact Valuation Roundtable」の共同設立、Value Balancing Allianceの設立を主導。現在はWEF(世界経済フォーラム)やCOP(気候変動枠組条約締約国会議)など国際会議で同アライアンスを代表し、各種委員会の無償職を務めるほか、ドイツ政府のサステナブルファイナンス諮問委員会共同議長、EUの自然資本会計プロジェクトやサステナブルファイナンス・プラットフォームへの参画、フランクフルトのISSB誘致成功にも貢献している。



Moderator

高木麻美

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、 株式会社Stem for Leaves 代表取締役

大学、大学院修了後、コンサルティング会社、シンクタンクを経て2017年に独立。企業の経営支援を行うほか、社会的インパクト投資・評価に関する調査研究、実践支援等を行う。多摩大学サステナビリティ経営研究所客員研究員。

6月18日(木)

15:00 - 15:50

【セッション⑨】

インパクトフィランソロピー：社会変革を生み出すために

社会課題が複雑化する中で、単一の解決策や短期的な成果だけでは、持続的な変化を生み出すことが難しくなっています。こうした課題には、不確実性を受け入れながら試行錯誤を重ね、さまざまな主体と連携して取り組むことが求められます。フィランソロピーは、こうした取り組みを支える資金として、高い自由度や長期的な支援に加え、不確実性の高い領域にもリスクを取って資金を投じられることや、他の資金や主体を呼び込む触媒機能などの特性を有しています。本セッションでは、これらの特性を活かした「インパクトフィランソロピー」の考え方を提示しつつ、実践事例をもとに資金提供の設計や関係性のあり方を考えます。



Speaker

岡部晴人氏



Speaker

工藤七子氏



Moderator

松島拓

米日財団 在日代表

1998年生まれ。東京大学教養学部卒業後、経営コンサルティングファームであるベイン・アンド・カンパニーの東京・ドバイオフィスにて、政府機関、民間企業、NPOを対象に経営課題に関するアドバイザーに従事。同社のソーシャルインパクト活動にも精力的に関わり、プロボノコンサルティングや知見発信を行った。その後ハーバード大学公共政策大学院（米国）に留学し、フィランソロピー・NPO経営等を研究。修士論文は「フィランソロピーの再活性化：日本における構造的課題と今後の展望」。2025年より現職。米日財団では、日本におけるNPO・フィランソロピーのエコシステム強化を目指し、パートナー団体との協働・助成を通じた長期的なソーシャルインパクトの拡大に取り組む。NPO法人SVP東京パートナー。認定NPO法人CLACK 理事。京都大学成長戦略本部連携研究員。

公益財団法人社会変革推進財団 常務理事

大学卒業後、日系大手総合商社勤務を経てアメリカの大学院で国際開発学の修士号を取得。大学院在学中、インパクト投資ファンドのパキスタン事務所でのインターンに参加。帰国した2011年より、日本財団へ入会し、日本ベンチャーフィランソロピー基金、ソーシャルインパクトボンド事業、GSG国内諮問委員会など様々なプロジェクトに携わる。2017年4月に日本財団からスピンアウトする形でSIIFを設立し常務理事に就任、インパクト投資や社会起業家支援など事業全般の企画・推進を統括。

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ事務局 スタッフ、Japan Impact Institute マネージング・ディレクター（認定特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会）

Japan Impact Institute (JII) では、インパクト・マネジメントの推進をはじめ、グローバルパートナーとの連携事業を担当。以前は非営利組織向けのファンドレイジング支援組織を経て、国際協力NGO駐在員として約5年間ミャンマーおよびカンボジアで地域開発や障がい児教育に携わる。日本評価学会認定評価士・認定ファンドレイザー。社会的インパクト・イニシアチブ (SIMI) 事務局スタッフ。

日英
同時通訳

6月18日(木)

16:10 - 17:10

【協賛セッション④】

インパクトの主流化へ ～3メガバンクによるイン パクトエコノミーの形成

本セッションでは、日本の3メガバンクによるインパクトへの取り組みを取り上げます。

2024年から25年にかけて、それぞれ「インパクトビジネスの羅針盤」（みずほFG, 2024年5月）、「インパクトレポート2024」（三井住友FG, 2024年8月）、「未来につなぐ～MUFGの社会課題解決～」(MUFG, 2025年4月)を公表し、インパクト志向や社会課題解決や価値創造に対するコミットメントを強めていくことを公にしています。これらをもとに、インパクトに関するそれぞれの具体的な取り組みを紹介してもらい、その特徴を探った上で、日本そして世界のインパクトエコノミーに向けた抱負を語り合います。

【協賛：株式会社みずほフィナンシャルグループ】



Speaker

武藤めぐみ氏

株式会社みずほフィナンシャルグループ 常務執行役員・グループ副CSuO

慶應義塾大学経済学部卒業後、プリンストン大学で修士(MPA)、政策研究大学院大学で博士(開発経済)、HEC経営大学院でEMBAを取得。
1989年に海外経済協力基金に入構し、国際協力銀行を経て、2008年より国際協力機構(JICA)にて研究所研究員、東南アジア地域の課長・次長、フランス事務所長、地球環境部長、研究所副所長、上級審議役、最高サステナビリティ責任者(CSO)等を歴任。
2025年4月より株式会社みずほフィナンシャルグループ常務執行役員・グループ副CSuO、みずほ銀行およびみずほ信託銀行の常務執行役員・副CSuOを務める。



Speaker

高梨雅之氏

株式会社三井住友フィナンシャルグループ 執行役員 グループCSuO (Chief Sustainability Officer)

1993年住友銀行 現三井住友銀行 入行。IR室長を経て、企画部にて当社初の統合報告書作成を主導したほか、ロンドンで欧州営業第五部共同部長としてサステナブルファイナンスを推進。2022年よりサステナビリティ企画部長、2023年より現職。

三菱UFJ銀行 グローバルCIB企画部 部長

三井住友銀行を経て、2004年に東京三菱銀行(現三菱UFJ銀行)に入行。Deputy Head of Global Corporate & Investment Banking EMEA、Head of Investment Banking, Asia-Pacificを歴任した後、2025年5月より現職。長年、主に、電力・インフラ領域のプロジェクトファイナンスのストラクチャリング・アレンジ・助言業務に従事し、国内外企業を支援。米国、豪州、英国、シンガポールでの勤務経験を有し、プロダクト・コーポレート業務双方でのマネジメント経験も豊富。現職では、グローバルCIB部門のESG施策推進・課題対応を担当する他、ブレンデッドファイナンス業務の本部レベルでの推進や、アジアの脱炭素化に向けたブレンデッドファイナンスファンドへの出資参画に加え、ファンドマネージャーと共同で新たなファンドを現在組成中。慶應義塾大学経済学部卒業。



Speaker

渡辺一史氏

公立大学法人 高崎経済大学学長、一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ評議員

筑波大学卒。商社、監査法人等の勤務を経て、1997年高崎経済大学経済学部講師。2008年教授、2017年副学長を経て、2021年より現職。専門は責任投資(ESG投資)、非財務情報開示。環境省「グリーンファイナンスに関する検討会」座長、「ESG金融ハイレベル・パネル」委員、金融庁「サステナブルファイナンス有識者会議」座長、インパクトコンソーシアム会長、内閣府「休眠預金等活用審議会」委員等を歴任。主な著書に『ESG投資ー新しい資本主義のかたち』(日本経済新聞出版社)、『責任ある投資ー資金の流れで未来を変える』(岩波書店)、『サステナブルファイナンス最前線』(編著、きんざい)、『サステナビリティ基準がわかる』(共著、日本経済新聞出版社)、『意図をもつ金融ーインパクトファイナンスのすべて』(監修、きんざい)など。



Moderator

水口剛

同時通訳
(Zoom翻訳)

6月19日 (金)

08:30 - 09:20

※時間変更

【セッション⑩】

インパクト・ファイナンスにおけるインパクトの検証・保証の動向 ～BlueMarkの知見から

インパクト投資の発展において、インパクトの質を維持し、インパクトウォッシングを防止するための慎重な検討が進展するにつれ、IMM（インパクト測定・マネジメント）フレームワークが確立しその実践が成熟し、さらなる「質の保証」を提供するためにインパクト検証の基準が開発されてきました。

本セッションでは、インパクト検証のリーディング企業でありSIMIのパートナーであるBlueMarkを招き、インパクト投資市場におけるインパクト検証と保証の現状と動向を探ります。また、アセットオーナーの視点に焦点を当て、将来的にどのような検証が標準となるべきかについて議論します。



Christina
Leijonhufvud
氏

Speaker

CEO, BlueMark

ウォール街で上級職を務めた実績を持つインパクト投資分野での著名なリーダー。2020年、コンサルティング会社Tidelineからスピナウトした新しいインパクト検証事業であるBlueMarkのCEOに着任。BlueMarkチームを監督し、さまざまな投資家タイプやアセットクラスで数多くの検証業務を直接指揮してきている。また、Tidelineの共同設立者兼マネージング・パートナーとして、主要な財団、世界最大級の金融仲介機関、ファミリー・オフィスや非営利団体とのコンサルティング業務の多くを主導してきた。現在、CASE i3、Impact Assets 50審査委員会、BRAC USA諮問委員会の委員を務めるほか、BRAC USAやその他いくつかの非営利団体の理事を務めている。

<https://bluemark.co>



Speaker

※登壇者調整中

決まり次第、更新いたします。



中尾有希 氏

Moderator

GLIN Impact Consulting株式会社 マネージャー

SDGパートナーズにてESG戦略コンサルティングを経験後、PwCアドバイザリー合同会社でM&Aアドバイザリー、財務モデリング、ESG戦略策定、人権デューデリジェンス、M&A時のESGデューデリジェンス等に従事。

GLINでは、主に金融機関、PEファンド向けに、サステナビリティ戦略立案と推進、投融資先へのエンゲージメント・企業価値向上支援、インパクト志向の投資・経営の支援、人材育成（研修等）を提供。

<https://glinimpact.com/>

6月19日（金）

09:30 - 10:20

【セッション⑪】

ラベルから対話へ～デットのインパクトファイナンスにおけるエンゲージメントの最前線

インパクト志向金融宣言の融資・債券分科会では、特に「エンゲージメント」に対する議論を重ね、3月にガイダンスを発表しました。その過程を踏まえ、日本市場で急拡大するデット（融資・債券）分野において、真のインパクト創出の鍵となる「エンゲージメント」に迫ります。現場が直面するリソースやノウハウ不足といった壁をどう乗り越えるのか。新たに発行された実務ガイダンスを紐解き、金融機関と企業の共創的パートナーシップのあり方について、第一線の実務者たちが実践知を交えて議論します。

【セッション共催：インパクト志向金融宣言（IDFI）】



Speaker

末吉光太郎 氏

みずほ証券サステナビリティ推進部 部長

みずほ銀行に入行後、大企業法人営業や国際業務・国内法人業務企画部門等を経験。2016年より社会課題解決型ビジネス開発・支援、インパクト投融資を推進。グループCSuO補佐を経て、2026年より現職。GSG Impact JAPAN委員、インパクト志向金融宣言運営委員、インパクトコンソーシアム「データ・指標分科会」副座長等。



Speaker

谷ヶ崎真尚 氏

三菱UFJ銀行サステナブルビジネス部 調査役

三菱東京UFJ銀行（現三菱UFJ銀行）入行後、成城支店を経てウェルスマネジメント本部にてUHNW企画・業務開発等を経験し、2021年より現職。インパクト志向金融宣言運営委員。GIIN Impact Forum 2025 Japan Panel登壇、CFA UK Certificate Impact Investing保有。慶應義塾大学法学部政治学科卒。



Speaker

山中亜希子 氏

肥後銀行サステナビリティ推進部サステナビリティ企画グループ 企画役代理

肥後銀行入行後、2015年より肥後銀行系列のシンクタンク（公財）地方経済総合研究所にて勤務。熊本県内の自治体コンサルを通じて、各種計画策定や経済分析調査に従事。2020年より肥後銀行経営企画部サステナビリティ推進室にて、行内のサステナビリティ推進に加え、県内企業へのSDGsコンサルティングを担当、現在に至る。



Moderator

橋爪麻紀子 氏

日本総合研究所 創発戦略センター シニアマネジャー

NTTデータ、国際協力機構を経て、2012年に日本総合研究所に入社し、現在に至る。機関投資家向けの企業のESG評価や、金融機関向けのサステナブルファイナンスの商品開発や運用支援、発行体の起債支援等に携わる。近年は、インパクトファイナンスに関する調査研究、コンサルティング、人材育成に従事。東京都国際金融フェロー、日本民間公益活動連携機構専門家委員。「意図を持つ金融：インパクトファイナンスのすべて」金融財政事情研究会（2025年）の著者メンバーとして参加。他、書籍・記事執筆多数。

6月19日（金）

10:30 - 11:20

【協賛セッション⑤】

IMMの“壁”を越える—実務者のリアルから紐解く、インパクト測定・マネジメントの実践知

社会課題を解決するために、社会的インパクト・マネジメントやIMM（インパクト測定・マネジメント）の重要性が広く認識される一方で、「何から始めるべきか分からない」「実装・運用が難しい」といった実務上の壁に直面する組織も少なくありません。本セッションでは、IMMIに関心があったり、導入を始めている実務者（事業者）が直面している課題や試行錯誤を率直に共有します。それに対し、IMM支援の専門機関が専門的視点から応答し、目的設定・指標設計・意思決定への活用などまで踏み込んだ対話を展開します。IMMの理想と現実のギャップをどう乗り越えるのか、明日からIMM実践に活かせるヒントを持ち帰っていただけるセッションです。

【協賛：インパクトサークル株式会社】



Speaker

高橋智志 氏

インパクトサークル株式会社 代表取締役社長CEO

投融资や事業活動の意思決定にソーシャルインパクトが組み込まれる社会の創造に向けて、インパクトサークル株式会社を創業。同社設立以前は、金融包摂型FinTechスタートアップであるGlobal Mobility Service株式会社（J-Startup Impact第一期）の創業メンバー/取締役として、日本および東南アジアにおける事業開発や資金調達を管掌。前職を含め、十年以上にわたり一貫してインパクト事業の新規開発およびインパクトファイナンス関連業務に従事。

現在は、静岡大学客員教授、文部科学省アントレプレナーシップ推進大使も務める。



Speaker

尾中友哉 氏

認定NPO法人Silent Voice 代表理事

自身もCODA（ろう者の親を持つ聴者）として育ち、耳の聞こえない子どもたちが地域で孤立する課題に向き合う。2017年に大阪で放課後等デイサービス「デフアカデミー」を設立し、対面・オンライン（全国対応）で居場所を提供。このモデル事業を全国に広げることで、どの地域でも聞こえない子どもが安心してつながれる社会を目指している。社会的インパクトの可視化にはこれから本格的に取り組む段階。



Speaker

佐藤日向子 氏

ONESTRUCATION株式会社 広報／Chief of Staff

スウェーデンのダーラナ大学（国際観光経営学）卒業。これまで日本・スウェーデン・チェコを中心に、海外企業との連携やブランド立ち上げ支援、取材・執筆などに従事し、ブランドやプロダクトの価値を言語化・発信してきた。2025年5月より現職。広報およびCEOの補佐を担い、ToC（Theory of Change）の策定など、社会インパクトの測定・可視化と発信へ取り組んでいる。

一般社団法人インパクト・マネジメント・ラボ 共同代表&アソシエイト

大学にて環境問題を専攻。ITコンサルタント、環境・CSRコンサルタントを経て、東日本大震災を機にNPOへ移り復興支援に従事。その後3年間バングラデシュ農村における女性の収入創出事業に携わる。帰国後、社会的インパクト投資のNPO、社会起業家支援のNPOを経て、2019年よりソーシャル分野におけるフリーランスとして独立。2021年より一般社団法人インパクト・マネジメント・ラボの共同代表。社会的インパクトを軸とした事業伴走支援や事業開発を手掛ける。グロービス経営大学院卒業（MBA）、著書に「ソーシャルセクターのための事業マネジメント実践ガイド」（2026年5月/英治出版）。



Moderator

土岐三輪 氏

6月19日（金）

11:30 - 12:20

【セッション⑫】

こども視点が金融と社会を変える —— 日本におけるChild-Lens Investing (CLI) の幕開けと官民共創の現在地

インパクト・エコノミーが新たな地平を目指す今、SID2024のキーノートセッションでも紹介した「Child-Lens Investing (CLI)」が日本でも本格始動します。CLIとは、投資プロセスにこどもの権利とウェルビーイングの視点を組み込む新たなアプローチです。本セッションでは、グローバルでCLIを牽引するUNICEF、「こどもとともに成長する企業構想」を推進するこども家庭庁に加え、国内で先駆けてCLI導入を検討する金融機関が登壇。世界の潮流、国の政策、そして金融の実践という多角的な視点から、日本へのCLI展開に向けたロードマップを議論します。



Speaker

浜勇二氏



Speaker

衣笠祥次氏



Speaker



Moderator

幸地正樹

国連児童基金 イノベティブ・ファイナンス・コンサルタント

大学卒業後、米系金融機関において東京、ニューヨーク、シカゴ、南カリフォルニアを拠点に日本企業を顧客とした為替、債券売買、債権証券化、新規顧客開拓業務などを経たのち、2017年にUNICEF（国連児童基金）に転職。途上国の子どもの課題解決に向けた日本企業とのパートナーシップ構築に従事後、2025年から在籍中のInnovative Finance for Childrenに入り、資本市場を活用した新たな資金調達方法の模索に取り組み中。

三菱UFJ銀行 経営企画部 サステナビリティ企画室 環境社会グループ 次長

2003年、三菱UFJ銀行（旧東京三菱銀行）入行。グローバルマーケティングセールス、グローバルシンジケーション業務を経験した後、三菱UFJモルガン・スタンレー証券へ出向し、ノンフロー商品を扱う部門におけるセールス&マーケティングおよび企画業務に従事。2022年8月より現職。プロジェクトファイナンスをはじめとする開発金融分野における環境・社会リスク管理（ESRM）や、インパクト投資におけるIMM評価等に携わる。日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）、米国公認会計士（USCPA）、JICA第8期環境社会配慮助言委員。

こども家庭庁

※登壇者調整中（決まり次第、更新いたします）

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、ケイスリー株式会社 代表取締役

PwCコンサルティングで官公庁向け戦略策定等の経験を経て、2016年ケイスリー創業。行政、投資家や財団、企業やNPOなど多様な団体と協働し、インパクト投資やインパクト測定・マネジメント（IMM）、成果連動型官民連携事業（PFS/SIB）の導入支援など、社会課題解決を軸にしたコンサルティングサービスを提供する。その他、琉球大学非常勤講師（専門：インパクト投資/SIB）、内閣府PFSアクションプラン検討会議民間有識者、内閣府市町村施策支援アドバイザー等を兼務。沖縄県中頭郡読谷村在住。

6月19日(金)

11:30 - 12:20

【セッション⑬】

企業の社会的価値志向 経営モデル

ESG経営やインパクト経営への関心が高まる一方で、社会的価値を企業価値へと転換し、本業の事業的価値を実現する実践的な経営モデルは、いまだ確立途上にあります。本セッションでは、SIMIが米日財団による助成を受けて実施している「企業のESG経営に関する枠組み開発と日米比較事例の共同研究」を題材に、日米企業のケーススタディや有識者ヒアリングから見てきた、社会性と事業性を両立するための条件や経営上の論点を共有します。参加者とともに、社会的価値を理念や開示にとどめず、戦略・ガバナンス・事業開発・組織運営にどのように組み込めるかを議論し、共助資本主義を企業経営の実践へと接続するための次の一步を探る場とします。



Speaker

内山大志氏

特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン フェロー、
フィノーカル株式会社 代表取締役

慶應義塾大学環境情報学部在学時より、社会的事業に関心を持ちフェアトレード事業に関わる。在学中に一般社団法人の創業を行う一方で、岐阜県垂井町とインドネシア農村にてフィールドワークを経験。大学卒業後、地域を拠点とした金融事業者でビジネス拠点作りや投資組合の運営を担ったほか、第二種金融商品取引企業にてインパクト投資コーポレートベンチャーキャピタル(CVC)の運営や、介護領域の一部上場企業(当時)と相乗効果のあるベンチャー企業への事業提携を見据えた出資に従事。2020年11月に「フィノーカル株式会社」を設立、岐阜県垂井町を中心としたまちづくり事業を主たる事業とする。大学院大学至善館MBA(2025年)を修了。一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム代表理事を務める。



Moderator

伊藤健

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ
業務執行理事、特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン
代表理事、同志社大学大学院総合政策科学研究科客員教授

大学卒業後、日系メーカー勤務を経て、米国Thunderbird Global School of Managementにて経営学修士課程を修了後、GE Internationalに入社。シックス・シグマ手法を使った業務改善や、コーポレート・ファイナンス部門で企業買収後の事業統合等を行う。2008年GE社を退職、NPO法人ISL社会イノベーションセンターを経て、2010年より慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任助教。2023年-2024年 特任准教授。

主に社会的インパクト評価を中心に研究し、2014年-2015年には、G8社会的インパクト投資タスクフォース日本諮問委員会の事務局、2015年経済産業省「ヘルスケア分野におけるソーシャル・インパクト・ボンドに関する検討会」委員長、内閣府「共助社会づくり懇談会 社会的インパクト評価検討WG」委員会主査を務めるなど、日本の社会的インパクト評価、ソーシャルインパクトボンド、社会的投資の普及促進に尽力している。